

中小企業景況調査結果 (平成28年10~12月期)

中小企業の業況は、緩やかに回復している

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど平成28年10~12月期実績と平成29年1~3月期見通しについての調査結果(回答数85社、回答率85%)をとりまとめた。本調査は、3ヶ月毎に年4回行っている。

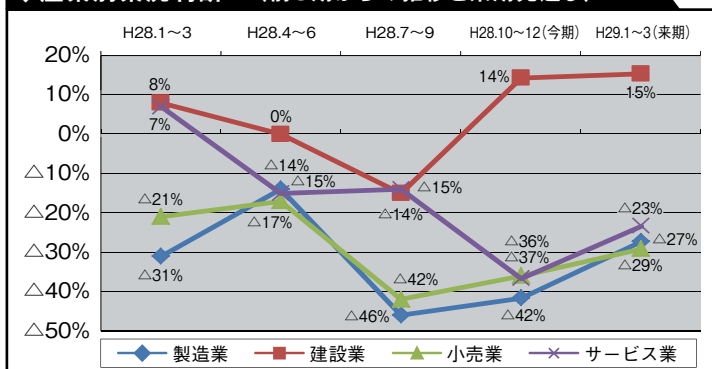
全業種のDI値に見る業況判断動向を前期と比較すると、前期今期ともに▲30%と横ばいとなっている。業種別にみると、サービス業が▲14%から▲37%と大幅に低下したものの来期は▲23%と上昇の見通しとなっている。製造業は、前期▲46%から▲42%と横ばいで、サービス業同様来期は▲27%と大幅に上昇の見通しとなっており緩やかに回復傾向にある。建設業が▲15%から14%とマイナスからプラスに転じ、小売業が、▲42%から▲36%にそれぞれ上昇した。個人消費は、気温の高い日が多く、秋冬物の衣料品の弱い動きがみられるものの、全体としては持ち直しつつある。従業員数は緩やかに改善されているが、建設業は15%から0%と減少し前期を下回っている。

経営上の問題点については、全業種とも「需要の停滞」を挙げており、今期も解消されていない。建設業では、「従業員の確保難」と「熟練技術者の確保難」が第2位と3位になっており、熟練技術者や従業員の人手不足が経営上の問題点となっている。

◆業況DI値(今期の状況)

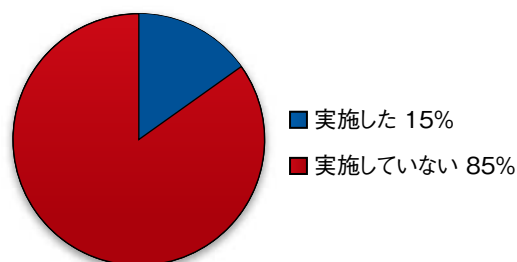
	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	△30%	→	△37%	→	△13%	→	2%	→	△35%	↘	△2%	→
製造業	△42%	→	△50%	→	△8%	↗	27%	↘	△42%	→	9%	↗
建設業	14%	↗	14%	↗	7%	↗	14%	↘	△14%	↗	0%	↘
小売業	△36%	↗	△46%	↗	△31%	→	△23%	↘	△46%	→	0%	↘
サービス業	△37%	↘	△43%	↘	△7%	↘	18%	↗	△27%	↘	△10%	→

◆産業別業況判断DI(前3期からの推移と来期見通し)

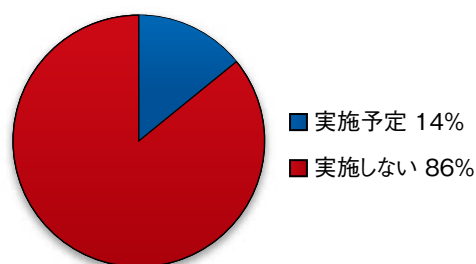


◆新規設備投資(今期実施・来期計画)

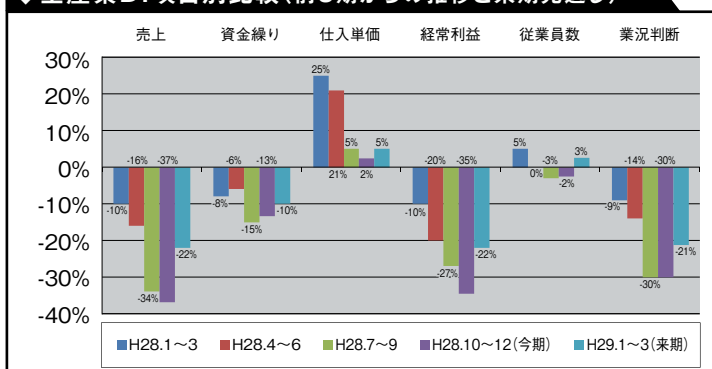
【今期設備投資】



【来期設備投資計画】



◆全産業DI項目別比較(前3期からの推移と来期見通し)



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	需要の停滞 31.0%	民間需要の停滞 15.8%	購買力の他地域への流出 19.7%	利用者ニーズの変化への対応 14.7%
2位	生産設備の不足・老朽化 17.2%	従業員の確保難 13.2%	需要の停滞 18.2%	需要の停滞 13.3%
3位	製品(加工)単価の低下・上昇難 10.3%	熟練技術者の確保難 13.2%	消費者ニーズの変化への対応 15.2%	店舗施設の狭隘・老朽化 10.7%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。